堺利彦氏の物騒な回想

自轉の短刀で覗つた壮士

麹町署に捕はれ取調べ中

◇……反社會主義で自白す

大地主の件から資本主義打破のリーフレットを撒布す

松署で取調中

種蒔く人に望む（上）

平林初之輔

……に進むべき……と思ひます。所で政府の趨勢とちがつて文學思潮なんていふものは、年が離るたんびに別になることは出來ないから、今更年の暮れになつて、子供時分の日記みたいに「今年は誤つた、來年は勝ひ改めんかな」式に空想を回らして見てもはじまらんです。

今年は勞働文學で來年が性慾文學、再來年は宗教文學、その次が探偵小説 etc. といつた風の豫言をして見るも面白いし、いや文學は何といつても現實主義だ、問題は現實主義を深化するにあるのだ……

と、反對するのも面白いです。併し面白いだけですよ。それは。非常にちがつてゐるから面白いだけなんです。

私はアリシズムが必要だといふことをいつか言つたと記憶してゐるが、それに判りきつた補足をしておくことにする。尤もその時既に言つて了つたかも知れないのだが。それはアリシズムは事實から生れたものでなければならんといふことです。たゞ宙にぶらついてゐるアリシズムで現状を破壊しようとしたつて仕方がないのです。頭の中で殺人した位ではどんな兇猛な刑法だつてこれを罰するわけにはいかんのです。

だから頭の中で文學の革命時代を描いて、しかたまま傑作大作をつめこんで見たつて仕方がない。實際は「死線を越えて」の世の中ですからね。これは頭の中で默守を否定して見たり、資本制度を廢止したりしても何にもならんのと同じです。乞食がカーネギーの夢を見てゐるやうなものです。その反對も勿論眞理だ。あたりさはりのないのやうに死んだ人を出してもいゝのだが、それよりもつとあたりさはりのないやうに抽象名詞で言ふが、或る論議家が、私財をなげうつて貧乏人を救はうと思つたり、その同情心を新聞記者に語つたり、演説の席で論議家道徳を説いたりする。併しそれだけの話ですよ。同じことはなかつたと同じことでんな。

新人會の機關誌が起訴さる

二十日公判

本郷區駒込上富士前町五新人會機關誌「人民」の編輯兼發行人東京帝大政治科三年生千葉雄次郎（二三）筆者同法科三年生來間恭（二三）の兩氏は同誌十一月號に「働か喰ふか」と題し階級鬪爭の論文を掲載した爲め安寧秩序を紊亂するものと看做され十九日新聞紙法違反として東京地方裁判所に起訴下田裁判長の係りで公判に附せられた

性慾學專門 菊池書院